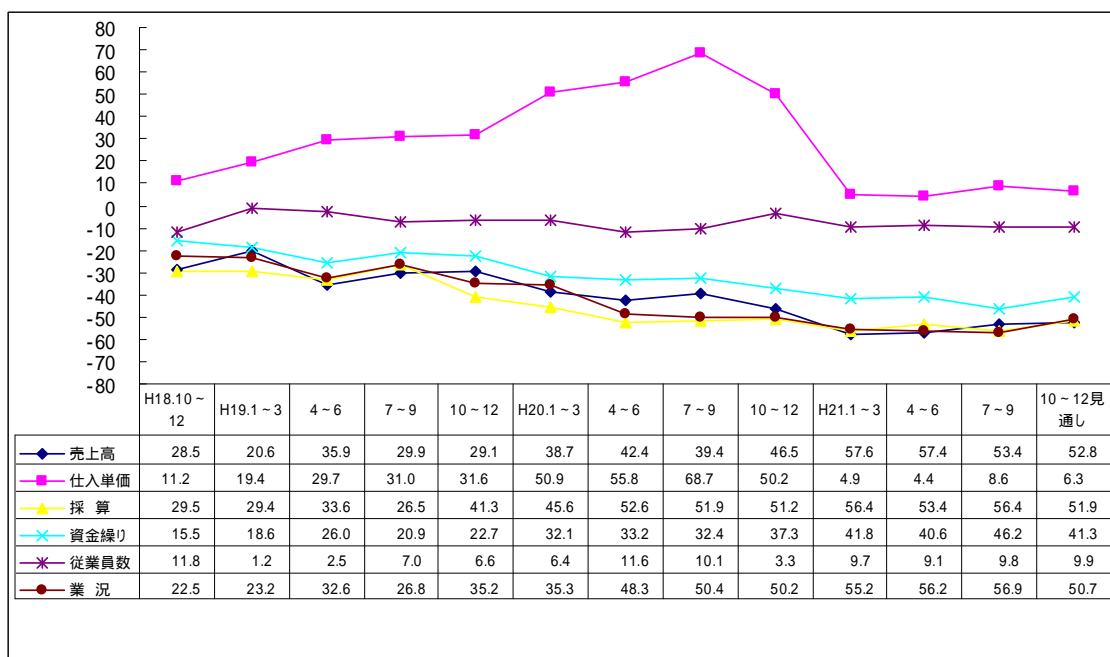


## 全体（福井県商工会地域中小企業）の景況

景気動向推移（前年同期比：DI 値）








最近の我が国経済を概観すると、在庫調整の進展による生産活動の回復、中国向けを中心とする輸出の減少幅縮小、エコカー減税などの経済対策効果などから、4-6 月期の実質 GDP が 5 四半期ぶりのプラスとなるなど持ち直しの動きがみられる。しかし、雇用・所得環境の改善の遅れを背景とする個人消費の低迷、設備過剰感の高まり、GDP ギャップによるデフレ基調などの調整圧力の存在や、今後の動きとして原油価格の高騰、円高進行、米国景気の失速など懸念材料も多く、本格的な回復には今暫く時間を要するとの見方も多い。





























































こうした中、福井県経済を概観すると、企業部門では需要減による企業収益の悪化が続いているほか、家計部門でも雇用・所得環境の改善の遅れによる消費マインドの冷え込み持続など、全国に比べ景況感は極めて低調なものとなっている。ちなみに、生産面では繊維、眼鏡など地場産業で引き続き受注・生産の低下が続いているほか、機械工業では電気機械、化学・プラスチック工業で持ち直しの動きみられるものの、全体では前年に比べ勢いは弱く、未だ先行きの不透明感は拭えない。また、個人消費の面では、年を通じて百貨店・スーパーの売上げが既存店ベースで前年割れにあるほか、新車販売も勢いを欠く展開が続いている。

こうした中、今回（7-9 月期）の景況調査をみると、景況感を示す DI 値 6 項目中、売上高が前回調査（H21 年 4-6 月期）の 57.4 から今回調査（H21 年 7-9 月期）の 53.4 へと改善したものの、これを除く 5 項目全てが悪化となった。特に、資金繰り DI は、前期 40.6 から今期 46.2 へと 5.6 ポイント低下し、悪化の度合いが目立っている。また、次期（10-12 月期）の見通しについては、従業員（今期 9.8 10-12 月期 9.9）を除く 5 項目で改善予測となったものの水準は低く、県内企業の景況感は依然弱きが支配している。

一方、今回調査の売上高と採算につき、その DI 値を全国と比較すると、売上高、採算ともに全国水準を下回ったほか、この間の新規設備投資も、今期の実施値が 8.6%と、やや改善傾向となったが、その水準は低い。

全国・福井景気動向 平成21年7月～9月（対前年同期比：D I値）

D I値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～-100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	49.7	9.9	48.9	36.0	10.7	49.2
	製造業						
	DI値	52.7	8.0	53.7	43.5	18.4	54.0
	建設業						
	DI値	48.0	18.5	52.3	36.3	13.4	48.5
	小売業						
	DI値	54.1	3.7	46.8	32.8	5.8	50.2
	サービス業						
	DI値	48.5	18.9	46.3	33.9	8.2	45.7
福井	全体						
	DI値	53.4	8.6	56.4	46.2	9.8	56.9
	製造業						
	DI値	58.2	17.2	75.7	62.2	8.6	73.0
	建設業						
	DI値	41.7	4.2	37.5	29.1	20.8	47.8
	小売業						
	DI値	68.5	1.9	64.0	44.0	2.7	61.3
	サービス業						
	DI値	40.4	11.5	44.2	44.7	10.9	45.1

仕入単価はプラスになるほど悪化となります。